

経済指標ウォッチャー

ユーロ圏PMI 50を上回ったものの前月から低下

足元の感染再拡大を受けて、サービス業の景況感が大きく低下

IHSマークイットPMI（購買担当者景況感指数）とは？

製造業やサービス業などの購買担当者を対象に新規受注や生産高、価格、雇用等の景況感について行ったアンケート調査結果を指数化したもの。その国(地域)で直接調査した結果を基に算出されるため、景気の実態が正確に反映されやすい。発表時期がGDP(国内総生産)など他のマクロ経済指標より早く、景気先行指数として注目度が高い。50が景気の拡大・後退の分岐点であり、50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気後退を示す。

2020年8月は2カ月連続で50を上回るものの

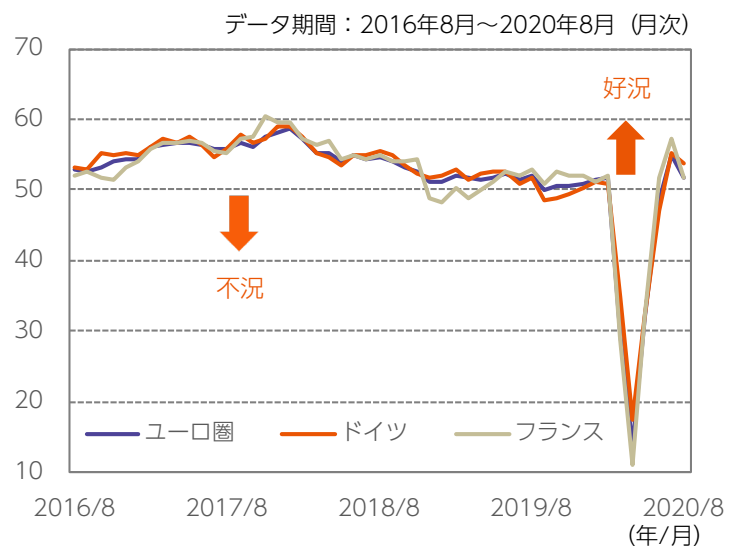
IHSマークイットが8月21日に発表した2020年8月のユーロ圏総合PMI（速報値）は51.6と7月の54.9から低下しました（図表1）。好不況の節目である50を2カ月続けて超えたものの、景気回復ペースにやや陰りが見える結果でした。同時に発表されたドイツ、フランスともに前月より低下しており、欧州の景況感の改善ペースが鈍っていることが示されました。

サービス業PMIの伸びが大幅に鈍化

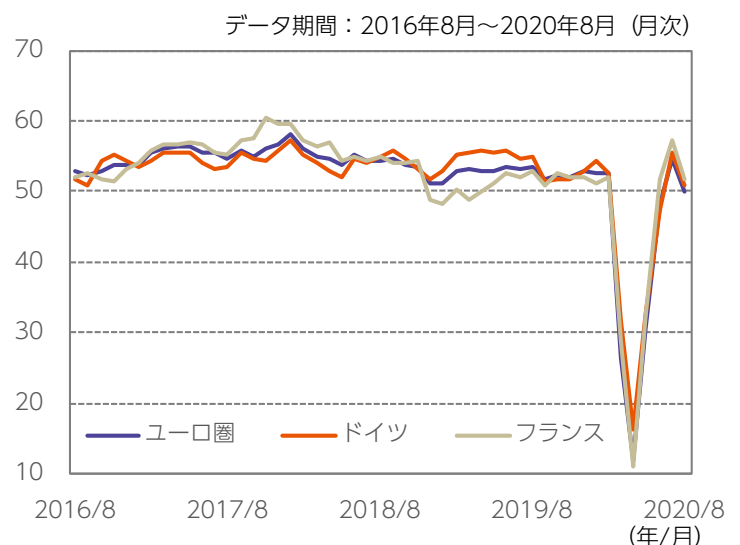
2020年8月の製造業PMIは51.7と前月より0.1ポイント、サービス業PMIは50.1と前月より4.6ポイント低下し、サービス業の景況感の落ち込みが大きくなりました。ドイツのサービス業PMIも50.8と前月より4.8ポイント、フランスも51.9と前月より5.4ポイント低下しており、足元の新型コロナウイルス感染者数の増加が影響したものと思われます（図表2）。

経済活動が再開されたことを受けて、7月には大幅な改善を見せましたが、8月はその改善速度にブレーキがかかりました。欧州では再び入国制限や渡航自粛等の措置が採られ始めています。人の移動が制限された2020年4月にはサービス業PMIは10台前半まで大きく落ち込んだことから、今後の感染状況次第では再び大きく落ち込む恐れがあるものと思われます。

図表1：総合PMIは50を上回ったが伸びが鈍化



図表2：サービス業PMIの落ち込みが大きい



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>